



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



インフルエンザの流行状況について



先週15日、北九州市内にインフルエンザ警報が発令されました。インフルエンザにより学級閉鎖をする学校も増えてきています。本校でも、先週まで全校で約5、6人の子どもがインフルエンザで欠席する状況でしたが、腹痛や嘔吐などの症状で欠席する子どもたちも多く見られました。今日、インフルエンザで欠席した児童は全校で2名、その他の理由を合わせると合計7名でした。欠席状況については、ホームページを毎日更新してお知らせしています。

さて、学級における感染者・欠席者が多い場合には、給食後すぐに早期下校（13：30頃）させることがあります。先週も、6年1組が早期下校をしました。こうした場合には、学校からなるべく早く「いっせいくん」でメール配信して、登録した保護者等の皆様に緊急連絡いたします。そうした際の対応についてご家庭で確認されますように、また必要ならば担任にお知らせくださいますようお願いいたします。また、具合が悪くなって早退する子どももいます。家庭調査票などをもとに電話連絡をしていますが、変更・付け加え等があれば早急にお知らせください。もし、高熱が出ていても連絡がつかずに下校できない状況になったら、本当に心配です。

感染（拡大）予防に向けて、今後も以下の点で学校と家庭とがともに取り組み、連携を進めていきたいと考えています。とくに、体調に関する細かな情報交換は重要です。また、すばやく慎重な対応として、体調不良の際には早めの受診をよろしくお願いいたします。

- ☆うがい・手洗いの励行
- ☆マスク着用
- ☆咳エチケットの徹底
- ☆換気
- ☆規則正しい生活習慣（バランスの取れた食生活、十分な睡眠など）
- ☆体力づくり
- ☆状況を考えて人ごみへの外出
- ☆早めの受診
- ☆感染確認後の隔離・休養



「体験的な活動」の充実を図っています！！

▼スクール救命士（5年）



▼消防士さんといっしょ（3年）



▼高齢者体験（5年）

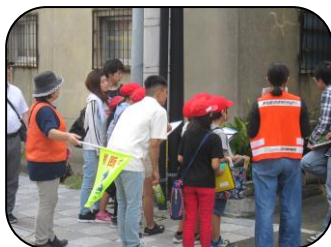


▼スーパー見学（3年）



学校教育の基盤となる「小学校学習指導要領」では、「体験」を重視した教育活動の推進が求められています。体験的な活動の意義はさまざまですが、例えば、①身のまわりの自然や社会、普段学校では出会えない人々と交流し、それらに対する興味や関心を高めることができる ②「なぜ？」という疑問や「どうにかしなくては！」という問題意識をもとに、解決に向けて取り組む能力や態度を育成することができる ③それまで気付かなかった「一人一人の個性、すばらしさ」を発見しあう機会になる、などといったことがあげられます。本校でも、各学年の教育課程の中に体験的な活動を効果的に位置付けるようにしています。

感動体験を重ねることが、子どもたちの感性を磨いていくそうです。ぜひご家庭でも、『大切にしたい ものより体験（子どもを育てる10カ条）』の実行を、お願いいたします。



▲安全マップづくり(4年)



▲秋をさがそう(1年)



▲ネット安全教室(5・6年)



▲八幡図書館見学(2年)